

実践記録

学校/学年	小学校 / 5 年	
教科等：単元名	道徳：「あなたなら、どうする？～メールの返信」	
キーワード	メールによるいじめの誘い 対処の仕方	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☒ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☐ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	C2：情報社会でのルール、マナーを遵守できる
	中目標項目番号 中目標項目内容	C2-1：情報の発信や情報をやりとりする場合のルール、マナーを知り、守る
授業会場	☐ パソコン教室 ☒ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	メールを返信するときにも、相手の言葉を傷つけない言葉を使うことが大切だということに気づくことができる。	
使用教材	教材名	事例で学ぶ NET モラル
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL 等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶ N e t モラル」

○展開案

	学習活動	指導 評価
導 入	1 映像クリップを見る 2 返信内容を考える	・一人ひとりに返信内容を考えさせる。
展 開	3 グループで返信内容を検討し合う 4 グループでの検討内容をもとに、全体で検討する	・返信内容に入りたい言葉を決めて内容を考えさせる。
お わ り	5 学習の感想を書く	相手の気持ちを傷つけない言葉を使うことが大切だと気づくことができたか。

○授業の成果

- ・実施学年の5年生も、既に一部の児童は携帯電話を所有している。また、まだ所有していない児童も、間をあまり置かずに入手するようになるとされる。携帯電話を本格的に利用し始める前に、携帯電話の使い方の悪い例を通して、ルールやマナーを考えあうことは、児童にとって必要な内容であり、皆真剣に取り組むことができた。
- ・メールは相手の顔が見えない分、互いの真意がうまく伝わらないことが多いため、普段より余計に相手の立場に立って考えることや、腹が立つような文面でも冷静に対応することが、余計なトラブルを生まない事につながることを学ぶことができた。

○指導のポイント・留意点

- ・携帯電話やPC、インターネットは、特別な道具や手段ではないこと。
- ・善悪・良否の判断は携帯やPCを用いていない日常の生活の場合と同じであり、普段から 人権感覚をみがくことが大切であること。